

**第4回 町田市スポーツ施設整備構想懇談会
議事要旨**

日 時 2018年2月22日(木) 18:30~20:00

場 所 市庁舎 10階 会議室

出席者

川崎登志喜 委員(会長)	玉川大学教育学部 教授
浪越 一喜 委員(副会長)	帝京大学教育学部 教授
山本 正実 委員	一般財団法人 町田市体育協会 理事長
大友 健寿 委員	株式会社ゼルビア 事業部 部長
関野 淳太 委員	株式会社 CASCABEL FUTSAL CLUBE 事業部 部長
安部 徹 委員	町田市スポーツ推進委員 会長
市川 健一 委員	公益社団法人 東京都障害者スポーツ協会 副会長
岡田 栄 委員	NPO 法人 CCCNET 事務局長
佐藤 正志 委員	町田商工会議所 専務理事
大久保 明 委員	一般社団法人 町田市観光コンベンション協会 事務局長

欠席者

間野 義之 委員	早稲田大学スポーツ科学学術院 教授
永友 洋司 委員	キャノンラグビーフットボールクラブ ゼネラルマネージャー
安達 廣美 委員	町田市町内会自治会連合会 会長
鹿沼 由理恵 委員	市内在住トップアスリート(リオパラリンピック銀メダリスト)

事務局

文化スポーツ振興部長	能條 敏明
文化スポーツ振興部スポーツ振興課長	石田 一太郎
文化スポーツ振興部スポーツ振興課担当課長	渋谷 晴久
文化スポーツ振興部スポーツ振興課担当課長	伊奈 誠
文化スポーツ振興部スポーツ振興課統括係長	根岸 良美
文化スポーツ振興部スポーツ振興課担当係長	清水 明
文化スポーツ振興部スポーツ振興課担当係長	喜多 和則
文化スポーツ振興部スポーツ振興課担当係長	鈴木 朝子
文化スポーツ振興部スポーツ振興課担当係長	松尾 哲平
文化スポーツ振興部スポーツ振興課主事	地福 友美
文化スポーツ振興部スポーツ振興課主事	石川 典子
文化スポーツ振興部スポーツ振興課主事	武藤 玲美
政策経営部長	小島 達也
政策経営部企画政策課長	田中 善夫
都市づくり部長	神蔵 重徳
都市づくり部公園緑地課長	杉山 祐介

傍聴者 17名

議事

1. 開会
2. 事務局より
3. 第3回懇談会議事要旨の確認
4. 意見交換
 - ・町田市スポーツ施設整備構想提言書（案）について
5. その他
6. 閉会

配布資料

- ・次第
- ・第3回懇談会議事要旨 ……資料1
- ・町田市スポーツ施設整備構想提言書（案） ……資料2

議事要旨

1. 開会

事務局からあいさつが行われた。

2. 事務局より

配布資料の確認が行われた。

3. 第3回懇談会議事要旨の確認

事務局から、第3回懇談会の議事要旨の確認が行われた。

事務局 修正等があれば2月23日までに事務局に連絡いただきたい。

4. 意見交換

事務局が資料2を基に説明を行った。

・町田市スポーツ施設整備構想提言書（案）について

川崎委員 民間資金を活用した施設の事例はあるか。

浪越委員 身近なところで、八王子市は「エスフォルタアリーナ八王子」というアリーナを建設しているが、ネーミングライツや体育館の天井を活用した広告収入を得ている。また、今後陸上競技場の整備も予定されているが、そこでも広告収入は検討されていると思う。ただ、運営費の一部を賄う、企業を宣伝するという考えだけでなく、市内の企業が市民のスポーツ活動に直接寄与し、地域を盛り上げるという、お互いにメリットを生み出すという視点で施設を整備・運営している。今後は、施設の整備は全て行政が行うということではなく、こういった考え方が大切だと考えている。

川崎委員 町田のスポーツ施設において、企業広告による収入などの現状はどうなっているのか。
事務局 今後検討を進めていく必要があると考えている。

川崎委員 地元の企業として、考えはあるか。

佐藤委員 相模原市の「相模原ギオンスタジアム」のように、ネーミングライツによる収入は重要だと思う。また、陸上競技場の電光掲示板が整備され、FC町田ゼルビアもスポンサーが増えてきている。町田市には中小企業も多くあることから、予算の規模は分からないが、地元の企業とともに地域・ホームタウンチームを盛り上げるという視点は重要だと感じている。

川崎委員 電光掲示板には企業の広告はあるのか。

事務局 今のところ予定していない。

川崎委員 スポーツ施設の新設を直接提言してはいないが、長期的な視点で、アリーナの建設は検討してもよいという内容になっている。これまでの意見交換を通して、違和感のある表現等があればご指摘いただきたい。

これまで「見る」スポーツの視点で議論を重ねてきたが、この懇談会では「地域の活性化に係るスポーツイベント」についても、議論することが求められている。この視点でもあらためて議論したい。

事務局 地域の活性化については、現行のスポーツ推進計画にも位置付けられており、「スポーツを通じたまちの活性化、交流の拡大」としてスポーツツーリズムの推進、スポーツ情報の発信力強化に取り組んでいる。

- 川崎委員 スポーツツーリズムや観光について、意見はあるか。
- 大久保委員 4月の町田さくらまつり、秋の町田時代祭りと、市内外から多くの人に来ていただけるようしっかりと準備をして大きなイベントを毎年企画している。
スポーツツーリズムについては、かつて取組があったが、現在は行っていない。そのような視点で人を集めていくことは重要と考えている。事業化ということを考えると、予算の確保が課題となり、アイデアがあっても実行できないこともある。予算の確保も視野にいれて企画を検討していけるとよい。
- 川崎委員 スポーツ施設において、プロスポーツの興行以外で行っているスポーツイベントはどのようなものがあるか。
- 山本委員 総合体育館では、競技ごとに様々あるが、「全国私立高等学校男女バレーボール選手権大会」は町田が発祥で 22 年目を迎えている。そのほか「関東私立高等学校男女バレーボール選手権大会」「全国ソフトバレー フリーフェスティバル」も開催されている。
こういった大会では、現在の施設では、選手と応援の家族で観客席等は満員になり、一般の方の観戦は難しい状況にある。提言にもあるように、将来的には「見るスポーツ」と「する」スポーツのすみ分けを検討していけるとよい。
昨年は総合体育館で大学のバレーボールの大会も行われた。大学バレーでは、女性ファンが多く応援に訪れることもある。大学生で全日本代表に選出される選手もいる。大学のリーグ戦の招致を検討してもよいのではないか。
- 川崎委員 総合体育館では、プロスポーツ以外でも観客を呼べるイベントや大会の実施が考えられる。陸上競技場では何かあるか。
- 大友委員 陸上競技場では「武相マラソン大会」がある。
- 川崎委員 埼玉県的事例になるが、大学生の大会の場合、日帰りできてしまうため、地元にお金が落ちていかないと聞いた。子どもの大会であれば保護者の宿泊なども検討できるかもしれない。
- 事務局 事務局から東京 2020 オリンピック・パラリンピックに向けて、事例を紹介してほしい。
昨年総合体育館で実施された「ヒューリック・ダイハツ JAPAN パラバドミントン国際大会 2017」について事例を紹介する。28 の国と地域から計 260 名の選手が町田を訪れ、最終日には立ち見客が出るほど観戦者も多く、にぎわいのある大会となった。開催にあたり地域の小学校とも連携が取れ、また、(財)町田市文化・国際交流財団と協働でもてなしの準備もできた。ボランティアの希望者も多く、バリアフリーへの対応にも力をいれたことで、世界バドミントン連盟からこれまでのパラバドミンントンの国際大会の中で最も高い評価を得ている。
- 安部委員 大会当日会場にいたが、一般の競技大会と変わらず盛り上がりを見せており、感銘を受けた。
- 市川委員 総合体育館では、東京都特別支援学校・特別支援学級設置学校体育連盟のバスケットボール大会が行われたが、使いやすいという評価を得ていた。
障がい者スポーツについては、理解啓発が根底にある。パラバドミントン大会でもそうだったと思うが、ボランティアによる支えも重要である。共生社会の素地を固めていくために、スポーツが果たす役割は大きいと思う。毎年 11 月に「町田市障がい者スポーツ大会」が総合体育館で開催されているが、参加者と同数程度、他府県からもボランテ

ィアに来ていただいている。スポーツが人のつながりを醸成していると考えている。

川崎委員 町田市の福祉のまちづくりの取組が1つの成果となっており、意義のあることだと感じている。

地域の活性化という視点で、イベントアイデアをお持ちの委員はいるか。

佐藤委員 総合体育館では、ダンスの大会は開催できないか。高校生世代で、ダンスイベントや大会はテレビ等で目にすることも多い。映像装置など設備面での詳しいことはわからないが、大相撲が開催されたこともあり、見て楽しめるイベントが増えていくとよい。

川崎委員 総合体育館には、そういったイベントに対応できるステージはあるのか。

事務局 体育館に常設のステージはないが、設置するスペースは確保できる。

川崎委員 町田市内の大学にはチアリーディングが強いチームもある。高校生や大学生のダンスイベント等も開催できるとよい。

安部委員 町田市体育協会が毎年「すぽ一つ祭まちだ」という大会を総合体育館で開催しており、親子スポーツなど多くの参加者でにぎわっている。この大会を町田市全域で、他の施設も活用して開催できるとよいのではないか。

川崎委員 この大会の競技種目はどのように決められているのか。

山本委員 体育協会加盟団体の競技の紹介、団体同士の横のつながりを生かしてスポーツを盛り上げていくことをきっかけとして始まった。現在、市内の小学校児童全員にチラシを配布しており、毎年2,500名ほどが参加している。総合体育館では人数がいっぱいになってきており、市全域にひろげていくことはよいと思う。以前陸上競技場も会場として、企画を検討していたが、屋外では天候に大きく左右される。体育館のみでは出来ない種目もあり、よい方法を考えていきたい。

市外からのイベントの企画の相談を受けた際には、町田にお金が落ちるよう声掛けをしているが、大きな大会になると旅行会社がスポンサーについていて、宿泊や食事について地域と連携が難しい。

川崎委員 以前、安達委員から市内10地区の地区対抗戦の開催といった意見もあった。

岡田委員 スポーツ愛好家を増やすのか、市民のスポーツ実施率を向上するのか、イベントの目的を考えていけるとよい。「ニュースポーツ」や「ゆるスポーツ」などスポーツに関心の低い人を巻き込むことを考えていく必要があるのではないか。町田は市民活動が盛んな地域であるので、FC町田ゼルビアのホームゲーム等を活用した団体のPRなど、多くの人を巻き込むことを考えていけるとよい。陸上競技場については、提言書案の7ページに「多機能複合化」「ランドマーク」というキーワードがある。スポーツを核としつつ、スポーツにまだ関心が低い人でも楽しく過ごせる場づくりに取り組んでいけるとよい。

2020年までに東京都も子育て世代のスポーツ実施率向上も目標に掲げ、東京都レクリエーション協会の加盟団体を支援している。事業の予算と団体・地域の活性化について、うまくマッチングして相乗効果を出す取組を検討していけるとよい。

大友委員 ホームタウンチームを社会課題の解決のために、うまく活用していただきたい。ゼルビアとしても、ホームゲームの際には、公園全体を活用して、にぎわいづくりに取り組んでいきたいと考えている。去年はホームゲームの開催時に家庭で余った食べ物を集めて子ども食堂に寄付する「フードドライブ」の取組を、町田市社会福祉協議会と協働し実

施した。

- 関野委員 ペスカドーラとしては、そういった取組はまだ十分にできていないのが現状だが、今後市内のスポーツイベントや地域のお祭りなど、市民が集う取組とホームゲームを連携していけるとよいと考えている。地元の人への周知にも取り組み、地域で一体となってスポーツを通じた地域の活性化に取り組んでいきたい。
- 川崎委員 地元の人への周知も今後ますます重要になる。地域が一丸となってスポーツを盛り上げていけるとよい。
- 佐藤委員 イベントを効果的に盛り上げていくために必要な施設や設備について意見はあるか。陸上競技場はスタジアムとしても機能をさらに充実していけるとよい。また、電光掲示板等や客席も充実していくとのことだが、地元の企業の協賛を集めるとともに、企業をPRし相乗効果が発揮できるよう、ソフトハード両面で取組を充実していけるとよい。陸上競技場は昨年「天空の城」というキャッチコピーを使ったポスターもあった。自然の中にあるスタジアムという町田の特徴を全国にPRしていくよう広報にも力を入れてほしい。「野津田公園スポーツの森」整備計画もあり、様々なイベントを誘致していけるとよい。
- 川崎委員 市として、陸上競技場の名称の変更、ネーミングライツの売買について構想等はあるのか。
- 事務局 今後検討していけるとよい。
- 岡田委員 スタジアムとして、プロスポーツの興行以外にも様々な取組が検討できるとよい。新たに設置される電光掲示板の性能はどの程度ものものなのか。パブリックビューイングなどのイベントも今後開催できるのか。
- 事務局 パブリックビューイング等にも活用できる掲示板である。
- 岡田委員 設備の面で可能であれば、課題はいくつかあるかもしれないが、パブリックビューイングも開催できるとよい。
- 安部委員 集客面での苦戦や地元住民への周知不足もあることから、広報面で取組強化は重要だと思う。その中で「広報まちだ」が果たす役割は大きいと感じている。関係者だけでなく、より多くの市民に情報がいきわたるよう、情報発信の工夫をしていけるとよい。
- 川崎委員 情報源として広報まちだが果たす役割は大きいという調査結果もある。効果的に情報を発信する方法を検討できるとよい。
- 浪越委員 スポーツを核として、人を集めることは重要である。また、スタジアム周辺のサービスにも力を入れて、平日でも人が集う環境づくりも重要だと考えている。スポーツを核としてにぎわいを生み出す拠点として、PRに力を入れていくことも重要ではないか。陸上競技場の電光掲示板が新たにできるが、市民のスポーツ活動の様子を再生するなど、普段味わうことができない感動体験を楽しめるしかけも検討しているとよい。子どもの競技の様子が映れば保護者にとっても大きな感動、陸上競技場の付加価値となり得るのではないかと。スポーツツーリズムの視点でも、家族で楽しむための付加価値の創造は重要となる。
- 川崎委員 本日欠席委員からの意見と頂戴しているとのことだが、事務局から紹介してほしい。
- 事務局 安達委員から頂戴した意見を紹介する。陸上競技場について、「自分と関係ない場所」と感じている市民が多いと感じている。例えば、市内の小学校児童全員を対象にフィー

ルドを裸足で走り回るイベント等を開催すれば、子どもたちにとっても思い出となり、陸上競技場が身近になるのではないか。

川崎委員 提言書案全体について、意見はあるか。本日いただいたイベントに関する意見は、提言書に組み込んでいきたい。

山本委員 本日の議論が追加されれば概ね案のとおりでよい。ホームタウンチームの認知度向上には今後も一層力をいれて進めてほしい。「広報まちだ」との連携なども含めて、より多くの市民への情報発信、チームやイベントの認知度向上に努めてほしい。駅前にスポーツ情報を発信するためにオーロラビジョンのようなものがあるのもよいかもしれない。

大久保委員 より多くの人が集う町田の「ランドマーク」としていくために、具体的にどのような取組をしていくかということまで検討してほしい。例えばホームタウンチームと市民の交流を深めて、「町田市民だからこそプロスポーツ選手と身近に触れ合える機会がある」、といったことを周知していけるとよい。

多機能複合化というキーワードもあったが、現状、日常的に人が集う場所となっていないという意見もあった。ビジネスとしての採算も考慮し、人が集うための環境の整備にも力をいれてほしい。

佐藤委員 提言の中身について、文末の表現が陸上競技場は「整備する」となっており、総合体育館は「検討する」、野球場では「推進する」「取り組む」「つなげていく」となっている。表現の使い分けをわかりやすく整理できるとよい。

陸上競技場の提言にある「資源や環境に恵まれた」「町田らしい新たな取組」について、この提言書の中では少しわかりづらいと感じた。具体的な内容をどこかで示せるとよい。陸上競技場は名称の変更等を検討し、「町田にスタジアムがある」ということをPRしていけるとよい。

岡田委員 陸上競技場の多機能複合化は検討していけるとよいと思う。その中で多くの人に施設を周知していくためには、名称の変更も検討できるとよい。他のサッカー関連の施設ではスタジアムという名称が多く使われているイメージがあり、スポーツ以外でも活用していくことも視野に入れていけるとよい。

市川委員 提言書の概ねの構成には賛同する。障がい者スポーツ支援の立場から見ると「バリアフリー」「ユニバーサルデザイン」に関連する記述があるとよいと思う。そのほか、これまでの会議でも発言したが、学齢児童への取組を重視していくことは、これからの町田のスポーツ施策を推進していくうえで重要だと考えている。スポーツで人を育てて共生社会の実現していくための素地づくりに取り組む提言となるとよい。

安部委員 2点ある。1点目は、広報・PRに力を入れて、より多くの市民にとってスポーツが身近なものにしていけるとよい。2点目は、市内のスポーツ施設全般について、市民が身近に感じられる名称を検討していけるとよい。合わせてネーミングライツなど企業とのかわりも構築していけるとよい。

関野委員 提言書の概ねの構成には賛同する。町田市出身のJリーガーが多いといった特徴なども生かし、子どもが夢を持てるスポーツ環境を充実していけるとよい。経済効果などの考え方も重要だと思うが「町田でスポーツをしたい」と思う子どもが増えるような、夢につなげる提言となるとよいと考えている。

大友委員 提言書の概ねの構成には賛同する。施設を充実することでコンテンツもさらに充実して

いくと考えられる。町田のスポーツの魅力を発信できる環境が充実していく中で、FC町田ゼルビアも町田の1つのコンテンツとして、力になっていけるとよい。

川崎委員 町田市出身のJリーガーが多いということであれば、レジェンドチームを市が集めてPRしていくことも効果があるかもしれない。また、町田のスポーツをPRしていくには、3つのホームタウンチームの横のつながりもさらに強化していけるとよい。本日いただいた意見を加え、座長一任で事務局と調整して提言を作成していきたいと考えているがよいか。

全委員 座長一任とする。

川崎委員 事務局と調整し提言書にまとめ、市長に提出する。

5. その他

事務局 本日までの意見を基に再度提言書案を作成し、委員に送付する。あらためて意見を整理したのち、市長に提言書を提出する。

6. 閉会

以上